

和田伸一郎著

存在論的メディア論

よくTVの報道などに関し、「リアルタイムの映像」と語られるが、このときに言う「リアル」とはどういう意味だろう。同時進行や、編集の手が加わっていないというだけにとどまらない、何かふしぎな魅惑を、この言葉は感じさせないだろうか。

本書によれば、映画や電話に始まり、いまのインターネットに至る、現代型のメディアが、これを「リアル」と強く感じさせる空間を創りだした。そこで情報と人とは、両者が初めからたがいに絡みあう、独自のあり方を示している。

著者はこの現象のなかに、現代のメディア技術がもつ斬新な可能性を見いだそうとするのだが、同じ考察を、マルティン・ハイデガーの哲学が先どりしていたと論じるところが面白い。

古い書物の中に新しい思考が秘められている。そう構えてみることは、情報のメディアが進化した今の状況に対しても、有効なのである。(新曜社、3200円)

評者・苅部 直 (東京大学助教授)

2005年 2月6日 読売新聞